



[トップ記事]

SEAFDEC Program Committee Meeting hosted by MFRD (p.1、上段)

MFRD 主催により SEAFDEC 計画委員会会議開催

2008年11月3日から5日にかけて、MFRDがシンガポールに於いて第31回計画委員会(以下PCM)会議を開催しました。PCM会議は、年度内に実施されたSEAFDECのプログラムを見直し、次年度の実施に向けて吟味するため、SEAFDECによって定期的に開催されています。これは、加盟国の優先事項や必要性に基づいてプログラムが形成され、また実施されるのを確実にするためです。議論の間、会議では地域の漁業部門の発展を支援する上でSEAFDECのプログラムが重要であることが強調され、特にSEAFDECによって開発される様々な技術に於いて、経済的な実行可能性が調査されるべきだということ、またそれぞれの活動は、地域の人々の生活を支援し、食料安全保障を向上させる上での漁業の役割を強調するべきだということが提案されました。

プログラムに関することに加え(p.3, SEAFDECプログラムのリスト参照)、東南アジア漁業管理に於ける地域諮問委員会(以下RAC)の設立と、2008年9月に行われた第一回RAC会議の結果が簡単に説明されました。討論の結果、PCMとRACフレームワークに基づく活動が確実にお互いに補足し合い、加盟国の利益を最大限にするため、現存のSEAFDECプログラムと第一回RAC会合でまとめられた、発生しつつある漁業管理問題の関係についても精査されるべきだと提案されました。

SEAFDECプログラムの実施が地域の優先的な問題と合致するよう、また古くからの資金提供者以外からの予算調達を向上させるため、更なる重要なステップとなったのが、プログラムフレームワーク(元々は、第29回PCMで「プログラム推進」として提案されたもの)の調整です。提案されたプログラムフレームワークは、PCMとの協議を経た上で2009年の第41回SEAFDEC理事会の検討と承認のために提出されます。

Editorial (p.2)

主な出来事

2008年、SEAFDECは加盟国の優先的な事項に合わせ、いくつかの重要な分野に焦点を

当ててきました。食料安全保障や人々の暮らしの支援に貢献する上での漁業分野の重要性は、当地域だけでなく世界的にも重要な課題の一つでした。よって、SEAFDEC は維持可能な沿岸漁業管理や漁業資源を管理する地域組織強化の支援、また魚や水産物の質の向上、遠隔地に適した養殖技術の開発と移転などを実施してきました。特に、ASEAN 基金の支援のもと、SEAFDEC は、漁業介入を通じて貧困を軽減し食料安全保障を強化することを目的として、加盟国の漁業担当政府職員のために、一連の HRD 活動を開始しました。もう一つこの四半期に実施されたのが、小規模漁業に関する国際会議です。SEAFDEC もその会議に参加し、加盟国によって合意された共通の立場、また当地域の小規模漁業の役割と重要性を訴えました。

更に SEAFDEC は、持続可能な海洋資源の利用を確保するいくつかの活動を強化してきました。ウミガメの保護と管理、鯨類の研究と観測調査を含む漁業資源の調査などの活動が強化されました。11 月には、地域の優先性のある事柄が確実に SEAFDEC のプログラムや活動に取り入れられるよう、SEAFDEC の PCM 年次会議や FCG/ASSP の会議が行われました。

[部局活動]

NIF Ecuador and AQD to collaborate on marine fish aquaculture (p.4、上段)

エクアドル NIF と AQD が、海産魚の養殖で協力

責任ある養殖/漁業という同様の目標をもち、AQD とエクアドル国立漁業研究所 (NIF) は、養殖施設 (様々な種類の海洋魚孵化場/養殖場や公開養殖池やケージ) の設立とエクアドルでの訓練 (海洋魚についても) を行うため、2008 年 12 月 3 日に 2 年間の期限で協力し合うことに合意・署名しました。NIF は AQD の技術支援に対し、350,000US ドルを超える予算を割り当てています。

Joint Fisheries Resources Survey by TS/KOYO MARU in Central Vietnam (p.4、下段)

共同漁業資源調査

2008 年 11 月 7 日から 18 日まで、訓練船耕洋丸を使い、ベトナムの海洋漁業研究所 (RIMF) の協力を得て、SEAFDEC は日本水産大学校 (NFU) と共同で漁業資源調査を行いました。この調査は、特にベトナム中心部の経済水域 (EEZ) における水中音響調査方法を用いて、小規模遠海漁業資源の分布と量を査定することを目的としていました。また、中深海トロール網、MOHT、MOCNESS 網による生物学的なサンプリングや、CTD を使った海洋学調査も、この水中音響調査を支援するために行われました。RIMF/VN から二人の研究者、SEAFDEC スタッフが一人この調査に参加しました。この調査によって得

られた情報とデータは、主催国と SEAFDEC の間で共有されますが、現在調査結果を分析中です。

[地域プログラム]

End of Project Meeting on Research and Analysis of Chemical Residues and Contamination (p.11、下段)

化学残留物と汚染に関する研究分析プロジェクト会議の終了

2008年10月22日から24日まで、MFRDがシンガポールに於いて、日本のトラストファンドが支援する「魚と水産物の化学残留物と汚染に関する研究分析」プロジェクトの終結に向けた会議を開催しました。このプロジェクトは、水産物における重金属、殺虫剤残留物、ヒスタミンや薬物を分析するため、関連する加盟国政府の水産部門職員に能力強化活動を提供すること、また、汚染調査を行うことを目的としていました。その結果は、2008年の終わりに公開されます。

2004年から2008年に、このプロジェクトの実施を通して9つの訓練コースが実施されました。9つのASEAN加盟国の主要研究所から、合計106人の漁業職員が、ヒスタミン、殺虫剤残留物、重金属や薬物残留物（クロラムフェニコール、ニトロフラン、マラカイトグリーンやロイコマラカイトグリーン）の分析方法について訓練を受けました。調査のコンポーネントに基づいて、調査結果により、主要サンプルの重金属、殺虫剤残留物、ヒスタミンや薬物残留物による汚染が規定限度を下回っているということがわかりました。

会議の中で、日本の代表が「養殖魚加工品の化学残留物の危機管理」と「日本の食の安全システム」についての講義をしました。また、この会議では2009年から2012年までにMFRDによって実施されるプログラム(日本のトラストファンドの支援による)について、特にそうしたプロジェクトの実施の基盤とされるべきSEAFDEC加盟国のニーズや現状についても議論されました。

Training course on Fishery Management for the SEA (p.13、上段)

東南アジア漁業管理訓練コース

2008年10月27日から11月7日にかけて、TDが「小規模漁業の発展、管理強化のためのグループ使用権を用いた共同管理」地域訓練コースをタイの訓練部局で開催しました。12日間の訓練コースは、東南アジア小規模漁業でのグループ使用権を用いた共同管理に関する概念と地域ガイドラインに対し、参加者の理解を促進、強化することを目的としていました。この訓練はまた、沿岸漁業管理の概念を参加者が実際の状況で応用することに加え、沿岸漁業管理を促進するために小規模漁業を強化することの重要性、目的や地域ガイドラインの応用を明確化させるためのものでもありました。更にこの訓練は、小規模漁業

に関する経験や見解を共有、交換すること、そして沿岸漁業管理の強化も目的としていました。インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムから、小規模漁業の発展や沿岸漁業管理に関して将来性・責任のある、若しくは現在の漁業管理システムや共同管理分野で経験のある 10 人の参加者がこのコースに参加しました。この訓練コースは、以下の題目や活動から成り立っていました：小規模漁業管理のための共同管理に関する導入と背景についての講義と研究案作成、日本と東南アジア各国の共同管理に関するこれまでの教訓と経験、共同管理の領域と特徴、そして共同管理における関連団体の役割と機能、漁業共同管理メカニズム、共同管理の実施、小規模漁業の促進における参加型方式、漁業権と指定地域での実行に向けての権利に基づく漁業の導入、コミュニティ漁業提携の組織構築、共同体漁業管理組織の財政的持続可能性、沿岸漁業と共同管理に関する **SEAFDEC** のプロジェクト、研究案デザイン。更に、共同管理を実際に行っている地域や小規模漁業、コミュニティ漁業組織を実際に訪れるため、現地調査／研修旅行も執り行われました。この訓練コースから期待される成果としては、地域ガイドラインを促進すること、そのガイドラインを十分に理解し **ASEAN** 加盟国の沿岸漁業管理に於いて実際の場面で応用すること、参加国がガイドラインを利用し小規模漁業や沿岸漁業管理組織の発展に向けて能力を強化することです。

2009年3月 岩崎浩美

津端次長の秘書として2009年3月2週目からSEAFDEC事務局に勤務しております、インターンの岩崎浩美と申します。東京外国語大学のフィリピン語科を卒業し、ついこの間マニラにあるアテネオ・デ・マニラ大学の歴史学修士課程を終了したところです。今までのインターンの方々とは違い、初めてのバンコク、そしてタイ語もゼロからのスタートですが、気持ちを新たに頑張りたいと思います。漁業のことについてはまだまだ知識が浅いので、今回はバンコクに来て数週間経って思うことを、思いつくままに綴ってみたいと思います。

フィリピンには、大学時代に交換留学で1年、大学院で3年、合計4年近く滞在しました。そうすると、どうしてもタイとフィリピンを比べてしまいます。どちらが良い、悪いと判断するつもりはありませんし、「フィリピンは…」「タイは…」と一括りに語ること自体間違っているのかもしれませんが（どちらの国も、一言では語れない多様な文化を持っていると思うので）。ただ、マニラもバンコクも、似ているところも違うところもあることは事実でしょう。

バンコクのスワンナプーム空港に到着すると、マニラと同じように熱帯独特の空気に加え、何となくお香と香辛料のような、心地の良い臭いがしました。少し話が逸れますが、マニラから日本に帰国するたびに、私は「フィリピンの臭いがする」と姉に言われていました。今となってはそれがどんな臭いなのか、自分では全くわかりませんが…

バンコク市内に出てまずマニラと同じだと思ったのは、当たり前ですが熱帯の暑さです。3～5月はバンコクもフィリピンも一年で最も暑い季節です。ちなみに、今朝のニュースによると、本日のバンコクの最高気温は36度だそうです。平均的には、若干バンコクの方がマニラより暑いかもしれませんが。気候に関して違うのは、フィリピン（南部を除く）は台風の通り道ですので、台風の被害が大きいということくらいでしょうか。私がマニラに滞在していたときにも、大型台風が直撃し、数日間停電が続いたことがありました。

もう一つ同じだと思ったのは、街の交通渋滞です。日本的な時間の感覚で、分刻みで生活していると、イライラすることも多いのではないのでしょうか。日本よりも時間がゆっくり流れているように感じるのは、マニラもバンコクも同じです。それに、タイの「マイペンライ（大丈夫、気にするな）」という概念は、フィリピンの「バハラナ（なるようになる）」という概念と通じる物があるように感じます。（日本と比べて）人がせかせかと急いでいない点、物事を進めていく時に色々と融通が利く点など、マニラとバンコクでの生活で共通する点は多いと思います。

海外生活を送る上で一番大切な事の一つに、食べ物が合うかどうかということが挙げられます。その点、タイの料理はおいしくて、野菜がたくさん取れるのは非常に嬉し

いです。これに関連して、料理に使われる香辛料の効果もあってか、タイ人にはお腹が出ている（又は太っている）人が少ないように思います。最初は少し苦手だったパクチーにも慣れてきました。フィリピン人には野菜を好まない人が多く、また、砂糖たっぷりの清涼飲料や甘い物を非常に多く取るためか、ほっそりした女性でもお腹だけはポッコリ、なんて人も多いです。

フィリピン人もタイ人も友好的で優しいと言われていますが、街の治安という意味ではバンコクの方が少し安全な感じがします。マニラでは私自身もホールドアップにあったこともありましたし、常に「アラートでいなければ」と気が張っていたのに対して、バンコクでは未だにストリートチルドレンを見たことがありませんし、「外国人を騙してお金を取ってやろう」という雰囲気を感じません。もちろん、危険な区域、安全な区域があるはずですが。

ということで、まとまらない文章になってしまいましたが、間違いなく言えるのは、バンコクは私にとって非常に住みやすいということです。もっと深いレベルでタイを理解できるよう、また漁業開発に於いて日本と東南アジアの国々に貢献できるよう努力していきますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

編集後記

バンコクは猛暑、そして時折激しい雨が降るといった日が続いています。第4四半期のニュースレター、日本語抜粋版ができあがりしました。次号もできるだけ早目に送付するように努めていきますので、引き続きよろしく願いします。

今回のニュースレター日本語訳抜粋版についてのお気付きの点、住所の変更等ございましたら、下記連絡先までお願いいたします。

監修：津端英樹（SEAFDEC 事務局次長兼訓練部局次長）
佐藤昭人（SEAFDEC 事務局アシスタントトラストファンドマネージャー）
翻訳：磯部弘美（SEAFDEC 訓練部局次長秘書）
岩崎浩美（SEAFDEC 事務局次長秘書インターン）

○住所・電話番号
SEAFDEC Secretariat
P.O.Box1046, Kasetsart Post Office,
Bangkok 10903, Thailand
Tel: +66 2 9406326

○ E-mail アドレス: sato@seafdec.org, iwasaki@seafdec.org